

崇城大 パイロット養成で連携

JACと契約 鹿児島大の学生受け入れ

崇城大（熊本市）と日本エアコミューター（JAC、鹿児島県霧島市）は、不足が見込まれるパイロットを確保するため、鹿児島大（鹿児島市）の学生をパイロットとして養成する契約を結ぶ。

同社は鹿児島空港を拠点に、周辺の種子島、屋久島、奄美大島のほか、福岡や大阪などと結ぶ19路線を運航している。

近く結ぶ契約では、JACが選

抜する鹿児島大の学生2人を崇城大空港キャンパスで受け入れ。2022年から約2年かけ、パイロットに必要な資格の取得をサポートする。約2千万円かかる訓練費用はJACと親会社の日本航空、鹿児島大が貸し出す。

航空業界は、バブル期に大量採用したパイロットが退職時期を迎える「2030年問題」を抱える。新型コロナウイルスの影響で落ち込



んでいる航空需要も中長期的には回復する見通しで、パイロットの養成は喫緊の課題となっている。

崇城大は琉球エアコミューター、日本トランスオーシャン航空（いずれも那覇市）とも同様の取

り組みを進めている。同大航空機操縦訓練本部の池辺洋一郎教授は「離島の生活路線を維持するためにも、大学として社会的責任を果たしていきたい」と話している。

（澤本麻里子）

熊本空港に隣接する崇城大空港キャンパス。契約に基づき鹿児島大の学生2人をパイロットとして養成する。■菊陽町